

石岡市推進委員会 委員長賞

「あいさつの本当の意味」

東小学校 六年 浅野 輝（あさのみらい）

ぼくは、学校に登校するときと下校するとき、近所の方や学校の友達、先生方など、たくさんの人に出会います。そのとき必ずあいさつをしています。

みなさんは、あいさつの意味を知っていますか。多くの人は、あいさつの意味などは考えず、ただ単に言われたから返しているだけだと思います。ぼくは、前まであいさつというのは、言われたから返す単なるやりとりにすぎないと思っていました。でも、その考えを大きく変える出来事がありました。

前までぼくは、人と話すのが苦手でした。特に登校の時など、人とししゃべれたとしても、会話が長くはつづきませんでした。クラスでも、仲の良い友達とししゃべることができず、ずっ

と悩んでいました。家族と話すときは自然に会話が続けるのに、なぜ学校の友達とは話が続かないのかと不思議に思っていました。

そんなある日、犬の散歩をしている一人のおばあちゃんに久しぶりに会いました。その犬とおばあちゃんは、保育園の時から知り合いで、僕のことをかわいがってくれていました。

「こんにちは。お久しぶりです。」のあいさつから始まり、学校のことや最近のできごとなどを伝えると、おばあちゃんはとても喜んでくれました。久々に会ったおばあちゃんと長く話すことができ、自信がわいてきました。そこから少しずつクラスの友達ともししゃべれるようになりました。友達と話すきっかけはいつも、「おはよう」から

始めました。そして、共通の趣味や、好きな遊びなどの話題をつづけると、友達とのきよりを少しずつ縮めることができました。それから、登下校で出会う人に「おはよう」などと自分から進んであいさつをするようになりました。時には向こうから「おつかれさま」や「お帰りなさい」と言ってくれたときもありました。それに返すように「ただいま」「今日学校でこんなことがあったよ。」と自然に言えるようになったのです。

今まで、「人と話すのが苦手」と悩んでいた僕でしたが、あいさつをきっかけに、学校の友達や近所のおじいさんおばあさん、色んな人と、自然とコミュニケーションをとることができるようになりました。あいさつは、言わ

れてから返す単なるやりとりではなく、色々な人と仲良くなるチャンスであり、そこから広がる話も大切なんだと気付きました。

今の社会は、人同士のつながりがうすく、あいさつする機会が少なくなっていると感じました。そんな今だからこそ、あいさつをきっかけに、会話を広げて、お互いに心を開き、仲良くなれたり、笑顔になれたりできる社会にしていきたいと思います。あいさつが広がれば、みんなが笑顔になって、社会全体が明るくなるはずです。それぞれが互いの存在をみとめ合える雰囲気や大事なのではないのでしょうか。そのためにはまず、「あいさつ」が重要だと僕は考えます。みんな、初めて会う人に恐怖心や苦手意識があるかも知れませんが、けれども怖がらずに、思い切ってあいさつをすると良い結果が必ず待っています。だからまず、「おはよう」の一言にチャレンジしてみよう。きっとその先には、新しい世界が待っていると思います。

 おはよう 

